



Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-5 18-1 清和会第 2 ワールドナースィングホーム

Tel 047-461-9111 Fax 047-461-7010

2010年 第16回 ドイツ軍人慰霊祭開催

左より平井氏、会長、武官、島田氏



慰霊碑前での集合写真



毎年恒例のドイツ兵のための慰霊祭が11月14日(日)11:00より、比較的暖かな曇り空の下、船橋市習志野霊園にて開催された。船橋市環境部のご好意で墓碑に刻まれたドイツ兵の名前が白く塗装されて、名前が見易くなった他、墓碑前の円形の芝生に1997年に植えられた、田島直人氏ゆかりの「ドイツ柏」は4メートル近くに育ち、標識も建て替えられて一際目立つようになった。慰霊祭は新任のドイツ大使館武官、ヨアヒム・グトー海軍大佐を迎えて行なわれ、習志野第九合唱団有志18名によるドイツ国歌合唱から始まり、追悼・慰霊の辞は、宗宮会長、武官、船橋市長代理の林和也環境部部長、習志野市の島田行信副市長が述べられた。恒例の御霊の紹介後、『軍人葬送歌』は参加者全員で合唱。献花は、主賓に続き千葉県総合企画部の中村耕太郎氏、習志野第一空挺団長代理の平井祐司二佐をはじめとして全員で行なった。なお、この慰霊祭開催が「日独交流150周年」催しの一環として当協会として意義深いものと考えていることを報道各社に連絡し、朝日新聞が11日付の千葉版で取り上げたこともあり、一般の参加者が20名近くあり、合計で約90名と盛会になった。直会后、役員有志は武官を『オーケストラの碑』へ島田副市長の先導でご案内した。

慰霊の辞

ドイツ連邦共和国武官 ヨアヒム・グトー

ご参列の皆様、
今日この日、ドイツでも戦争や圧制による犠牲者すべてを追悼することになっています。

本日皆様と共にここで慰霊祭を行えます事は、私に取り大きな荣誉でございます。シュタンツェル駐日大使になり代わり、ご参列の皆様、とりわけ千葉県日独協会の皆様には、この慰霊祭の維持の為、長年にわたり続けて来られたご尽力に対し、心よりお礼を申し上げます。毎年皆様は、ここに眠る兵士の為、慰霊祭を行なっておられます。この兵士達に代わり、心より深い感謝の気持ちを御伝え致します。

ご存知のようにここには一九一五年から一九一八年にかけて、当時の捕虜収容所で亡くなられた三十名の兵士が眠っています。彼等は捕虜生活の結果なくなったのではなく、スペイン風邪の犠牲となったのです。この病気は日本人も捕虜の外国人も区別することなく襲いました。その為、一九一九年には西郷寅太郎収容所長も同じ病気で亡くなりました。西郷所長は捕虜の世話と義務感から、感染の危険があるにも拘わらず収容所に残ったのでした。西郷収容所長のことも特別に追悼致します。今年「日独交流一五〇周年」にあたります。各地で日独の深い関係と交流の歴史を思い起し、お祝いすることになっています。その際、日独関係の極めて特別な時期も思い起こすべきであると思えます。この地での出来事は私達の心の中に根付き、日独友好を支える礎の一つとなっています。

今日この日、ここに眠る人達だけでなく、世界中の戦争の犠牲者にも思いを馳せたいと思えます。

— 今後の主な催し物案内 —

1. クリスマス・忘年会

今年も下記のようにクリスマス・忘年会を開催致します。今回は従来の千葉、船橋地区から柏地区での開催となりました。多くの方々のご参加をお待ちしています。

- ・日時…12月22日(水) 6時～8時 pm
- ・場所…「ピッツェリア ヴェント」柏高島屋ステーションモール店 (04-7148-2394)
JR、東武野田線・「柏駅」下車、徒歩3分
駅に隣接する(我孫子方面に向かい左側)
柏高島屋ステーションモール・新館 9 階
- ・会費…4,000円(飲み物・飲み放題を含む)
- ・12月8日までに同封のハガキにて出欠のご連絡をお願い致します。

2. 「日独交流150周年」記念新春講演会

10月16日に東京横浜ドイツ学園で、フォルカー・シュタンツェル大使を迎えて「日独交流150周年」オープニング・セレモニーが開催され、各地で記念行事がスタートしました。当協会は、記念新春講演会を企画しております。詳細は次号。

3. 「日独交流150周年」記念菩提樹(Lindenbaum)

来年4月25日(月)奈良市新公会堂においてDr. フォンドラン会長以下約100名の全独日協会連合会代表団を迎え『日独交流150周年』記念式典が開催されます。記念としてドイツ側より150本の菩提樹の若木が日本側に贈呈されます。この記念樹は全国日独協会に、その希望に応じ配分される予定で、現在日独協会連合会事務局が希望を受付けており、当協会はドイツ軍人慰霊碑のある船橋市習志野霊園の田島直人氏縁りのドイツ柏に続くものとして10本の申し込みを行いました。最終的に何本の寄贈を受けられるか分かりませんが、会員の皆様に記念樹引受け先、或いは記念植樹についてのアイデアがあれば事務局までお申し越し下さい。当会としては習志野市や船橋市に記念植樹の可能性を打診中です。なお奈良における記念行事への参加については連合会事務局より連絡があり次第ご案内の予定です。



「オーケストラの碑」を訪れたグトー武官と役員

○デュッセルドルフ市派遣研修員を迎え
ホームパーティー

デュッセルドルフ市の要請を受け、今年も10月28日夜、同市派遣研修員とのホームパーティーを、伊東惇子監事のお宅で開催した。デュッセルドルフ市は同市日本人社会が1987年同市750周年を記念し創設した奨学基金により、毎年この時期に約10日間3名の研修員を日本に派遣、今年は「技術移転」と言うテーマでデュッセルドルフ大学コミュニケーション科教員 Mr.C.ヴォルフ、特許マーケティング企業課長 Ms.C.ハンゼン、アーヘン大学大学院 Mr.A.バートスが選ばれ、この日、日中は千葉県のアレンジで研修先を訪問した。ホームパーティーは当会会員9名、千葉県関係者4名の会費制、家庭料理のご馳走あり、歌あり、最後にお茶のお点前ありで、帰国に際し研修全行程の世話役 Ms.ヘンツェを通じ「大変心温まる体験でした。」と感謝の意の表明があった。



伊東さん宅でのお点前

○ 出版

「品格の原点」—今何故『日本道徳論』なのか
西村茂樹/尾田幸雄(当協会理事) 著
小学館756円(税込)

百年前、徳川幕藩体制の崩壊と明治維新という日本史に稀に見る大転換により、西欧文明に翻弄された明治時代の人々の生き方を書いた啓蒙思想家、西村茂樹(1828～1902)の「日本道徳論」を現代語に翻訳した書。荒廃した現在の世の中で、我々が忘れてきている道徳、品格を改めて百年前の視点から説き、如何に生きるべきかを考えさせる。

○ お知らせ

この千葉県日独協会通信紙『ディ・アイへ』がネットで見られます。「日独協会」で検索、左側にある「各地の日独協会」をクリック、その下に出てくる「全国日独協会一覧」を開いて、「千葉県日独協会」をクリックすると、『ディ・アイへ』が見られます。